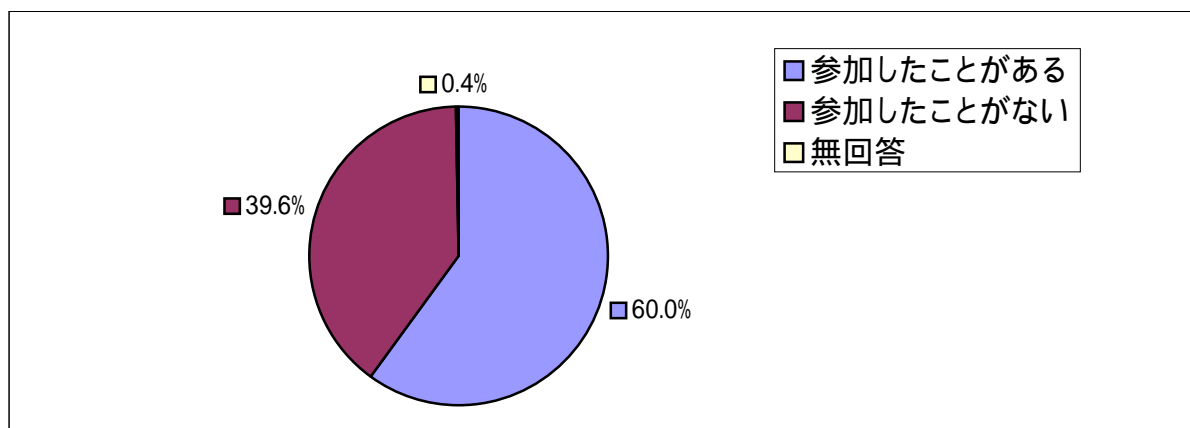
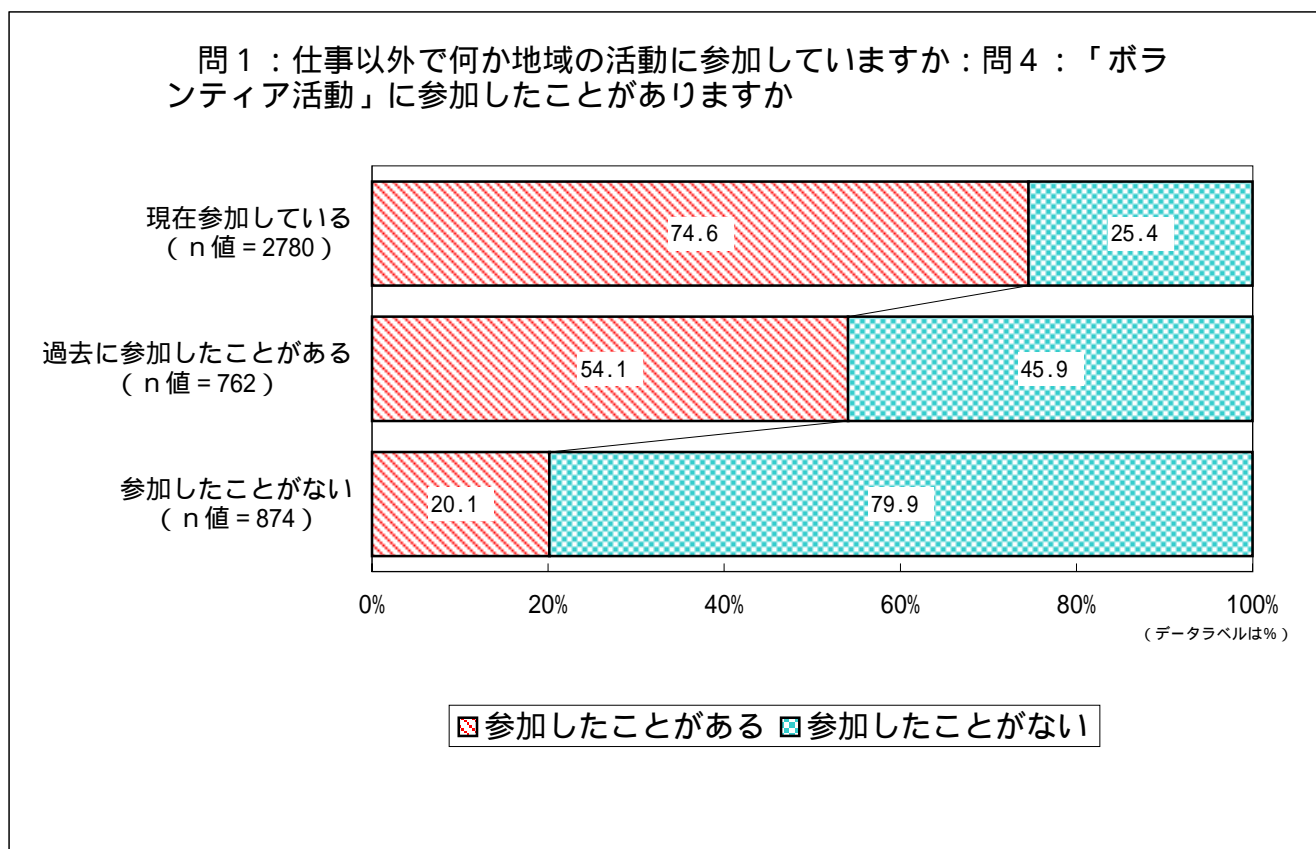


## ボランティア活動についてお尋ねします

問4 「ボランティア活動」に参加したことがありますか



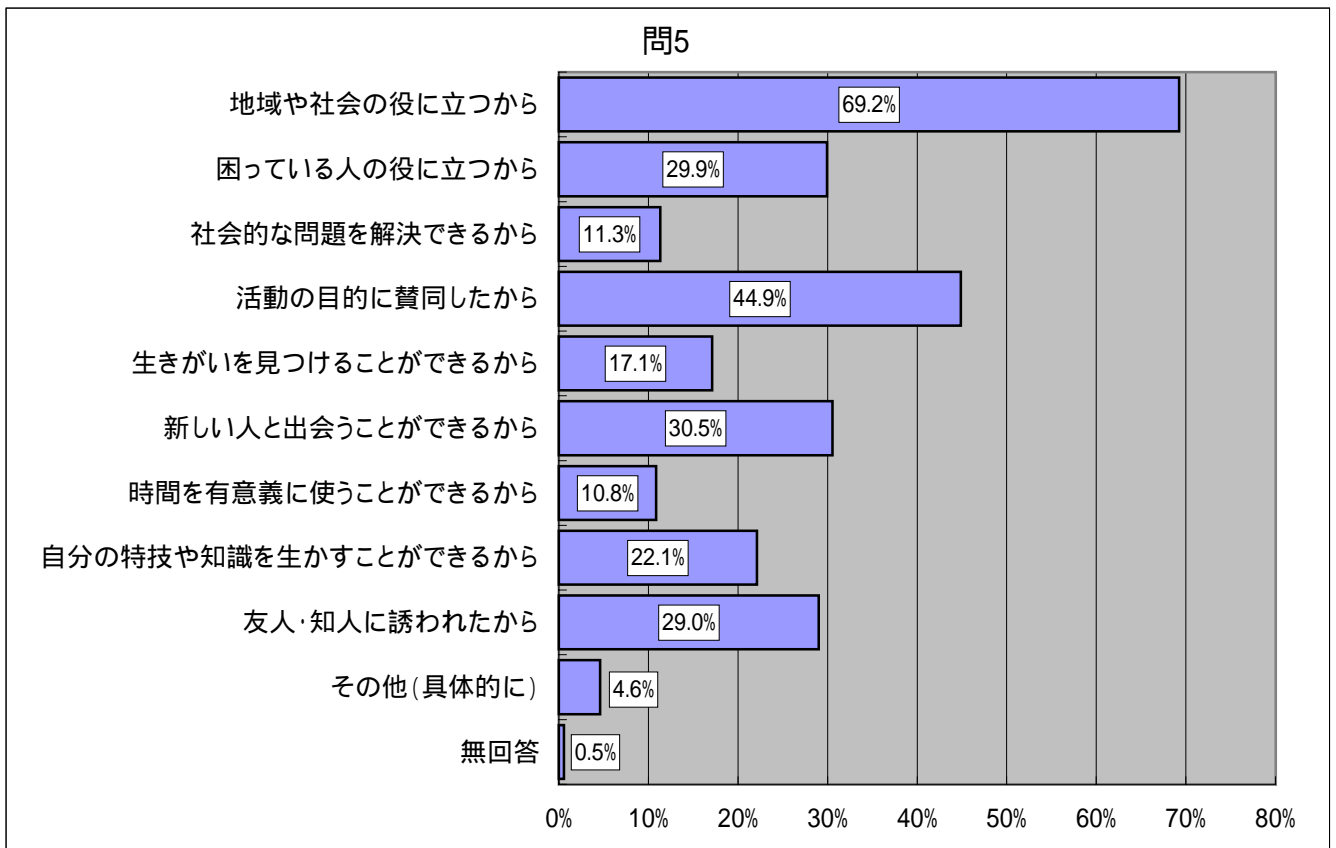
〔問1とのクロス〕（有効回答数：4,416件）



ボランティア活動の参加率は60.0%ととても高く、特に「地域活動に現在参加している人」の参加率は74.6%となっており、ボランティア活動への参加率も高い傾向にあります。

問5 どのような理由で「ボランティア活動」に参加されましたか（あてはまるものすべて

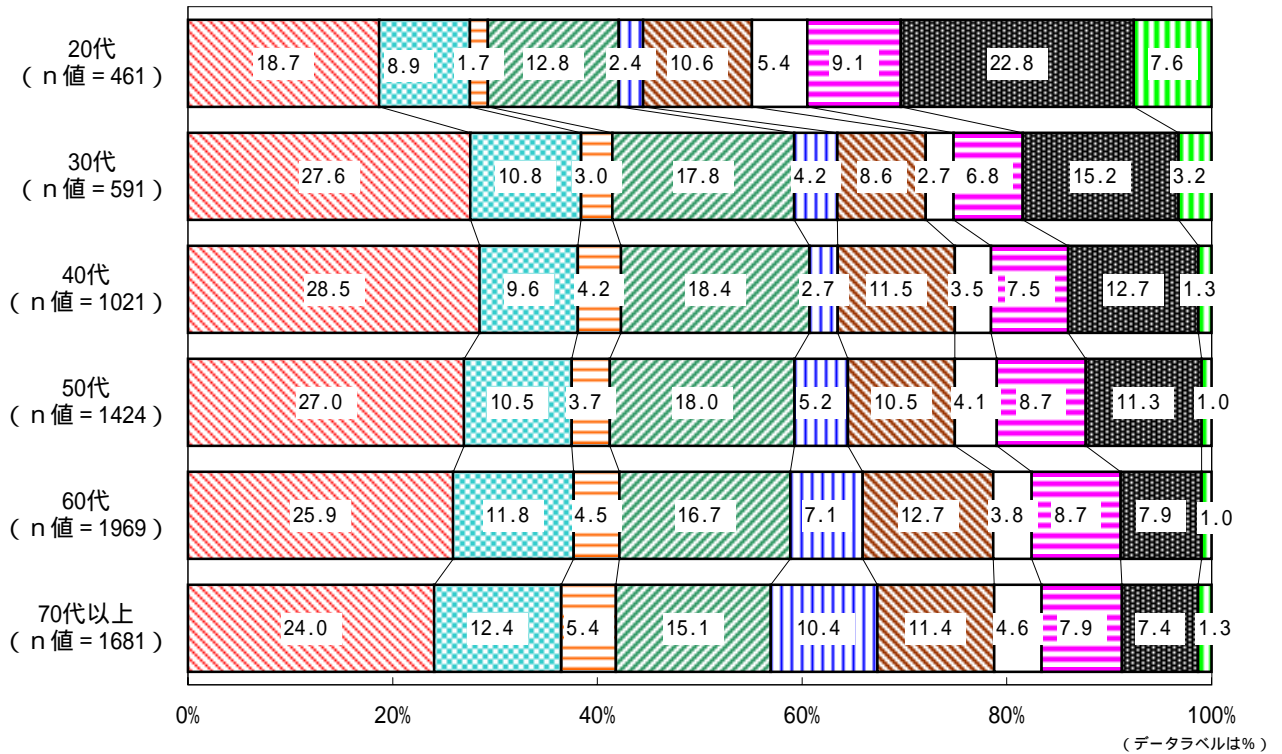
（有効回答者数：2,664人）



参加している「ボランティア活動」の内容は、「地域や社会の役に立つから」が69.2%で最も高く、次いで「活動の目的に賛同したから」が44.9%、「新しい人と会うことができるから」が30.5%、「困っている人の役に立つから」が29.9%と続いています。

〔年齢階層別〕（有効回答数：7,147件）

年齢：問5：どのような理由で「ボランティア活動」に参加されましたか

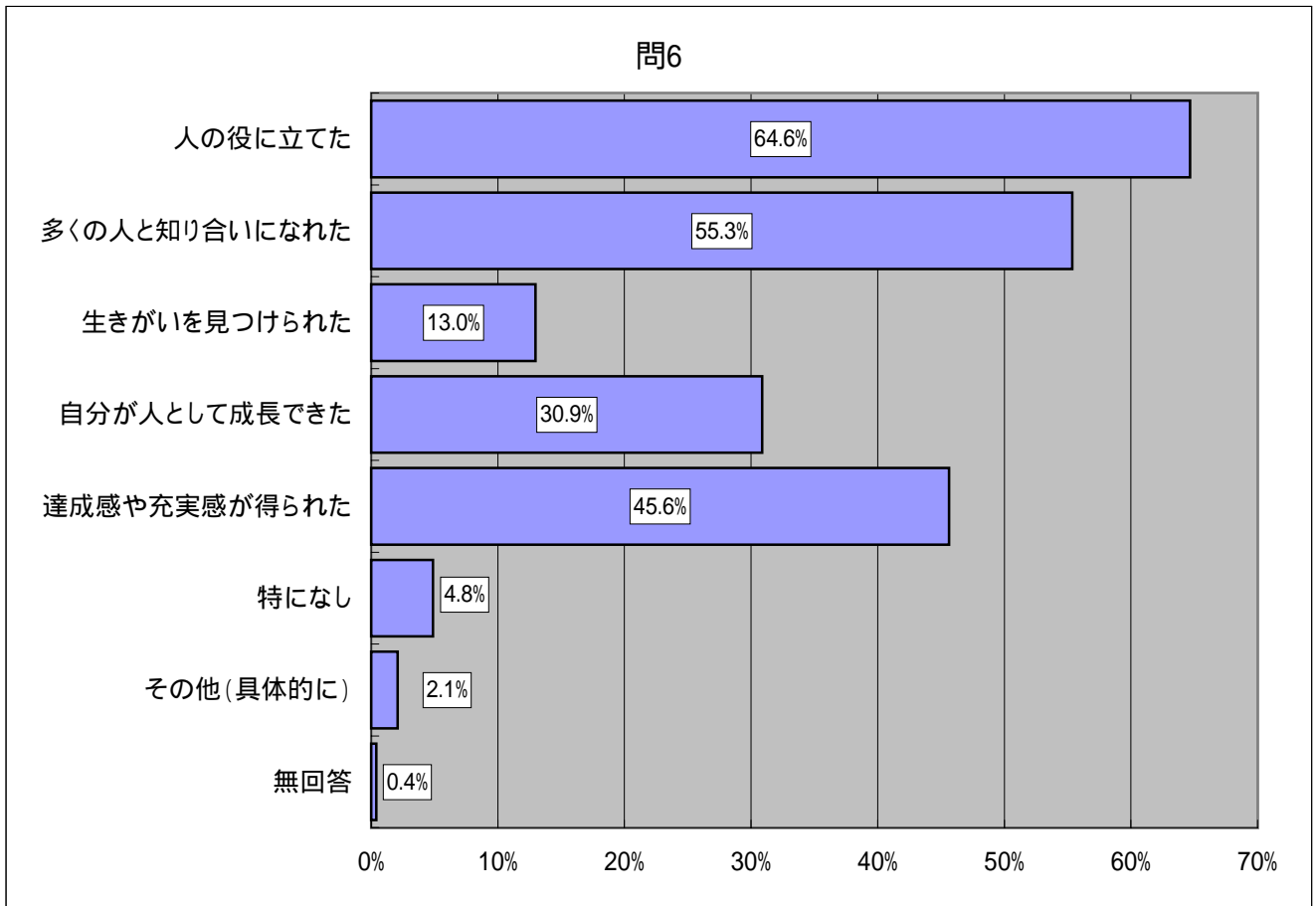


- 地域や社会の役に立つから
- 困っている人の役に立つから
- 社会的な問題を解決できるから
- 活動の目的に賛同したから
- 生きがいを見つけることができるから
- 新しい人と出会うことができるから
- 時間を有意義に使うことができるから
- 自分の特技や知識を生かすことができるから
- 友人・知人に誘われたから
- その他（具体的に）

年齢階層別にみると、20代では「友人・知人に誘われたから」が22.8%で最も高く、「地域や社会の役に立つから」が18.7%と他の年齢階層に比べると低くなっています。

また、その他意見の中には、企業の社会貢献活動や学校行事の一環として活動に参加したという意見も多く、外からの働きかけがボランティア活動のきっかけとなっていることが伺えます。

問6 「ボランティア活動」をして良かったと思うことは何ですか（あてはまるものすべて）  
（有効回答者数：2,664人）

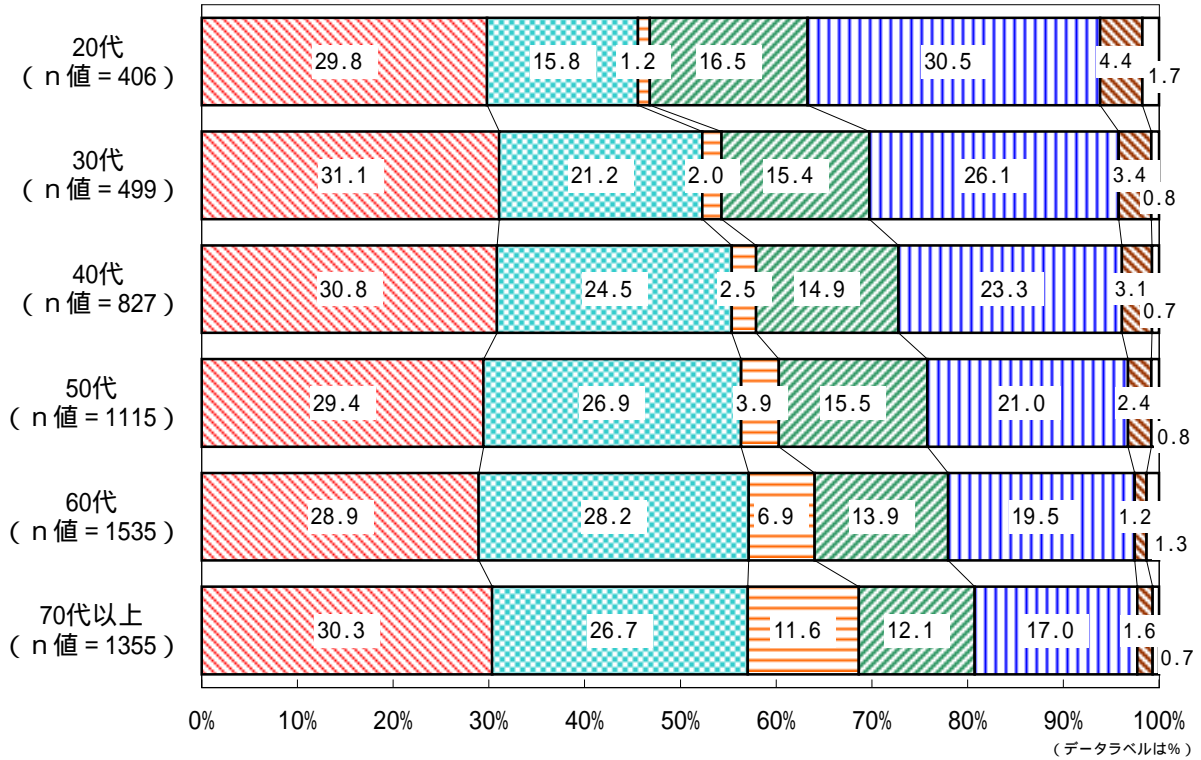


活動をして良かった点は、「人の役に立てた」が64.6%と最も高く、以下「多くの人と知り合いになれた」（55.3%）、「達成感や充実感が得られた」（45.6%）、「自分が人として成長できた」（30.9%）の順となっています。

このことから、人との関わりを大切にしていたり、人との新たな出会いに満足感を得ている人が多くいることが伺えます。

〔年齢階層別〕（有効回答数：5,737件）

年齢：問6：「ボランティア活動」をして良かったと思うことは何ですか



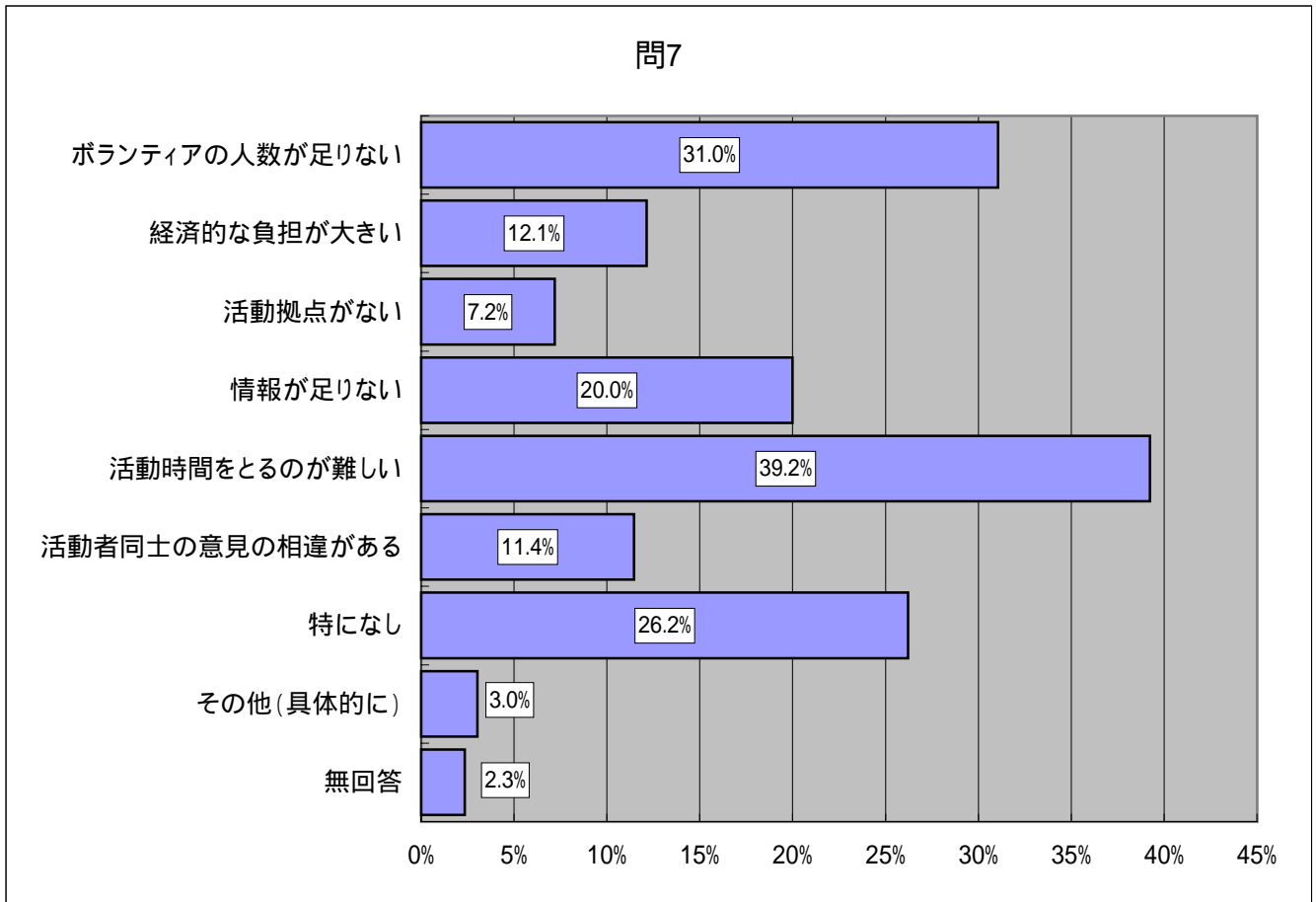
- 人の役に立てた
- 多くの人と知り合いになれた
- 生きがいを見つけられた
- 自分が人として成長できた
- 達成感や充実感が得られた
- 特になし
- その他（具体的に）

年齢階層別にみても、年齢階層が上がるにつれ「生きがいを見つけられた」が高く、逆に「達成感や充実感が得られた」が低くなっています。

このことから、年齢階層が上がるにつれて達成感や充実感が得られやすい単発的な活動から、生きがいを見つけるまでの継続的な活動に移行していることが伺えます。

問7 「ボランティア活動」をする上で困ったことは何ですか（あてはまるものすべて）

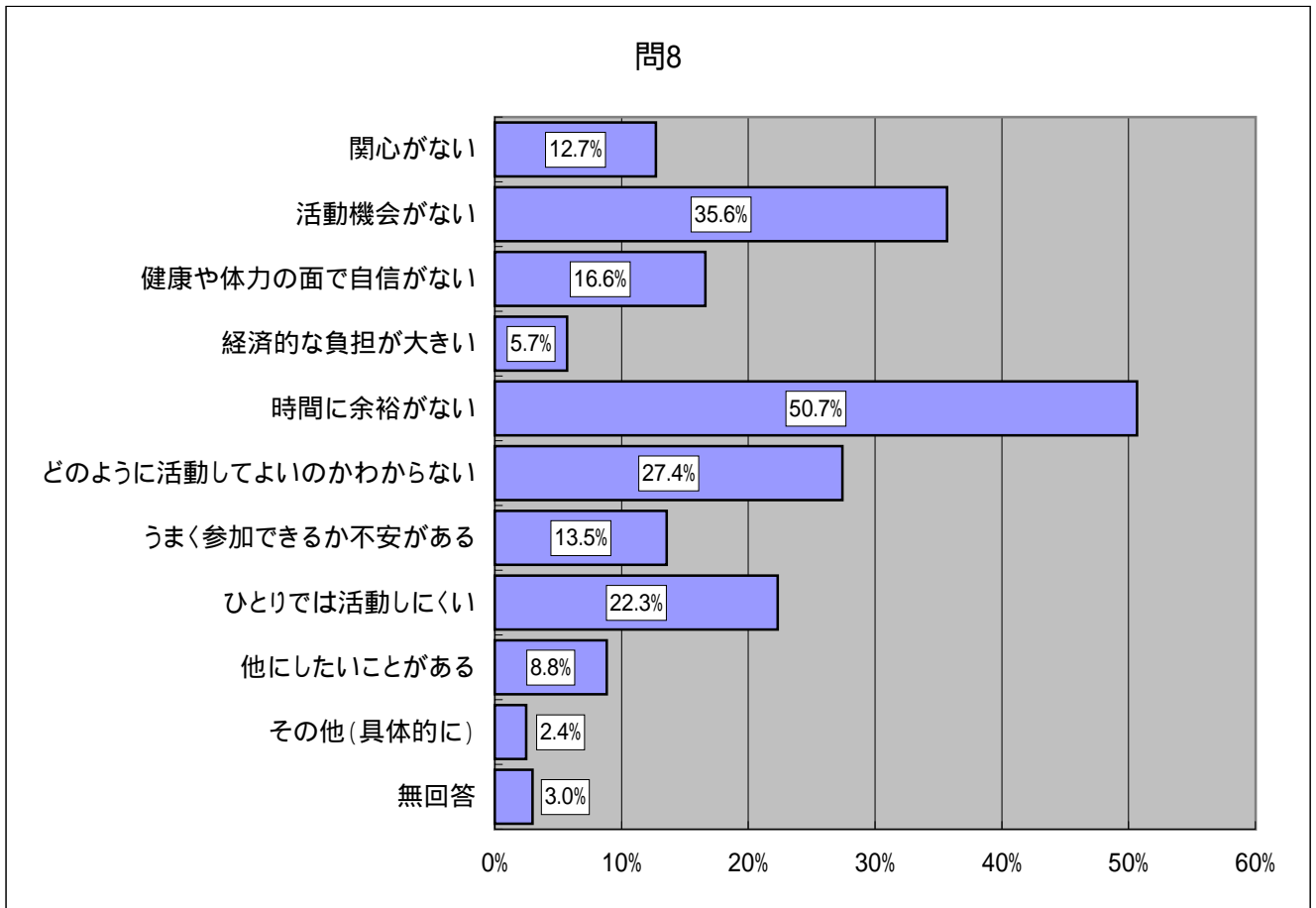
（有効回答者数：2,664人）



活動をする上で困った点は、「活動時間をとるのが難しい」が39.2%と最も高く、以下「ボランティアの人数が足りない」（31.0%）、「特になし」（26.2%）の順となっています。

問8 「ボランティア活動」に参加したことがない理由は何ですか（あてはまるものすべて

（有効回答者数：1,759人）

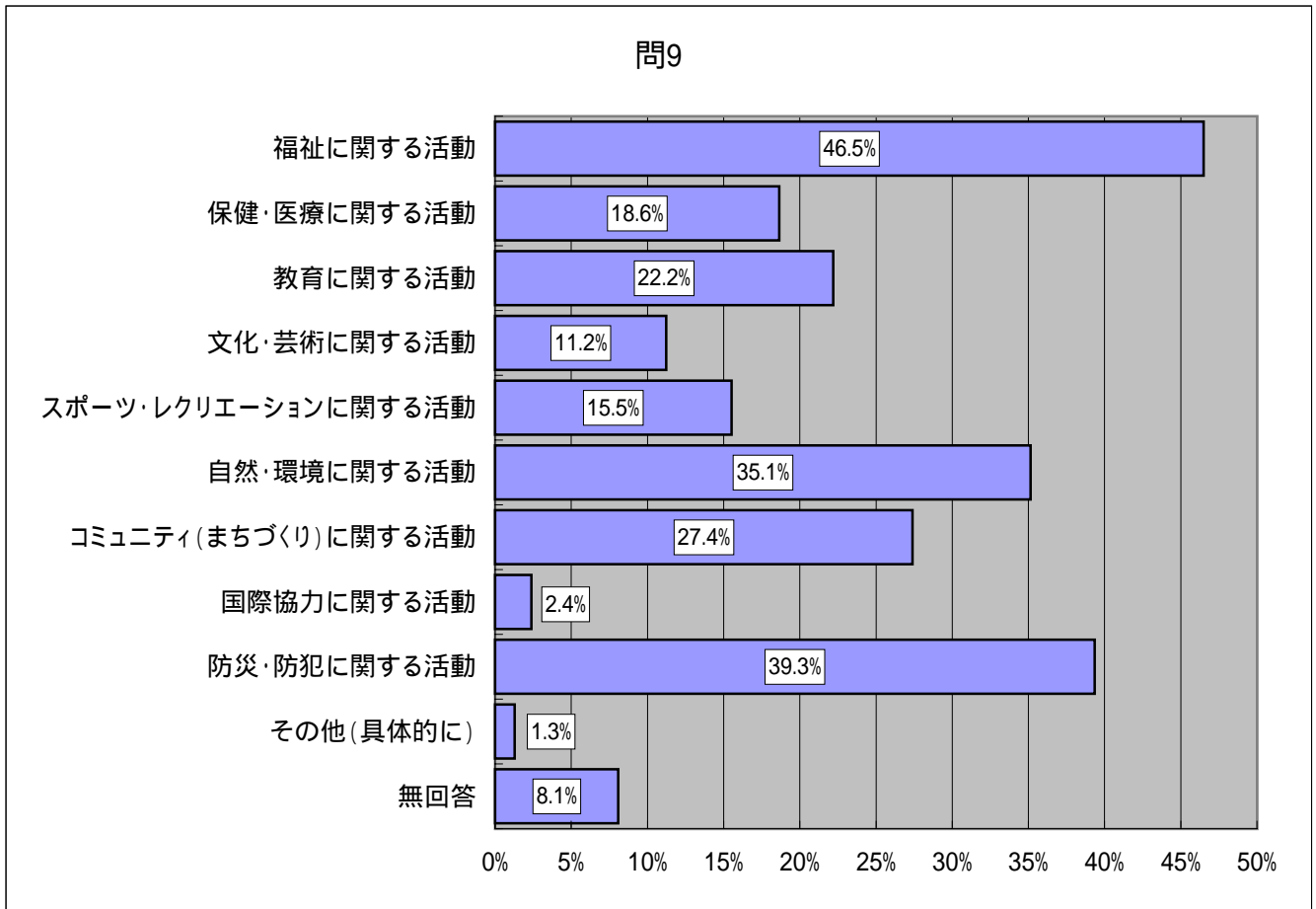


活動に参加したことがない理由は、「時間に余裕がない」が50.7%と最も高く、以下、「活動機会がない」（35.6%）、「どのように活動してよいのかわからない」（27.4%）の順となっています。

このことから、潜在的には参加意欲はあるけれど「時間」「機会」「不安」などの理由から活動につながっていない状況が伺えます。

問9 あなたの住んでいる地域（小学校区）において、今後、どのような「ボランティア」が必要だと思いますか（3つ以内）

（有効回答者数：4,440人）



今後、必要だと思われる活動は「福祉に関する活動」が46.5%と最も高く、以下、「防災・防犯に関する活動」（39.3%）、「自然・環境に関する活動」（35.1%）の順となっています。

防災・防犯に対する活動への関心の高さは、昨今の世相を反映しているものと思われます。

このことから、地域での自主的な防災・防犯に目が向けられているとともに、地域の自然・環境に対する意識の高まりが伺えます。

また、「小学校区」という比較的狭い範囲での活動に限定したため、福祉や防災といった身近な問題に対するニーズが高くなったと考えられます。